

理科カリキュラムを考える会 2015年夏季シンポジウム

「教員の多忙化と少人数学級を考える

— 知の創造を実現する教育財政 —

2013年に行われた教育環境の国際比較「OECD 国際教員指導環境調査 (TALIS)」をきっかけに、日本の教員の多忙さや、日本の学校の教育環境についての問題点が浮き彫りとなりました。しかし、日本の今の教育財政政策でこれらの問題を解決していけるのでしょうか。

今後の世界で求められるのは、新しい知を創造する人材であると言われています。そのような人材を育てることのできる教育を実現するために、次のような課題を挙げました。

1. 多忙で授業の準備もままならない教員の環境改善
2. 深く理解し、学んだ知識を応用できるような少人数学級の実現

これらをただ主張するだけでは実現の道筋は見えません。今回は、ニューヨーク在住の国連児童基金(ユニセフ)本部・ジュニア教育エコノミストの畠山勝太氏と、文部科学省初等中等教育局の茂里毅氏をお呼びいたしました。学級規模や教員の環境に関する政策について、諸外国との比較を通して、教育財政の観点から議論していきたいと考えています。

【日 時】 2015年6月28日(日) 12:30~17:00

【場 所】 東海大学代々木キャンパス4号館5階講堂

【主 催】 NPO法人理科カリキュラムを考える会

【共 催】 東海大学教育研究所

【協 賛】 株式会社アルファ企画

【参加費】 無料 / 資料・茶菓子代500円

【ウェブサイト】 <http://www.rikakari.jp/sympo/> (当日は左記Webサイトで中継します)

【プログラム】

11:30 受付開始

12:30 開会／本シンポジウムの経緯説明

13:10~14:40 講演「学級規模と教員政策の教育財政 — 諸外国との比較から —」

— 教育財政はどうあるべきか？

— 学級規模と教育効果の関係は？

— 教員の多忙さはどうやって解消できるのか？

畠山勝太 (国連児童基金(ユニセフ)本部・ジュニア教育エコノミスト)

15:00~15:30 講演「文科省の取り組み — 教育再生の動向から —」

茂里毅 (文部科学省初等中等教育局教職員課長)

15:30~16:50 各方面からの意見と議論

小松夏樹 (読売新聞編集委員) ほか

17:00 閉会

【問合せ】 NPO法人理科カリキュラムを考える会事務局 小川慎二郎 [sympo\(at\)rikakari.jp](mailto:sympo(at)rikakari.jp)

〒177-0044 東京都練馬区上石神井 3-31-1 早稲田大学高等学院